



日本訪問の感想 (2)

ブラザーアンドリュース記

私はプロテスタントの教会でも話をしたが、イエスがもたらす人間の尊厳と自由は、聴く人々の心をとらえた。そこにいた牧師たちも、福音を新たに受けとめ直したようだった。

同様のことは、二日間、私がカトリック修道院のシスターたちとともにリトリートの時を持った時にも起きた。シスターたちは、イエスの恵みと慈しみを伝える聖書のおよき知らせを聴いて、非常に喜び、心が開放されたようだった。

最も意外だったのは、私の取材に来たメディア関係者も、同じような反応をしたことである。私はオーストラリアで、メディア関係者がカトリック教会や、私の信仰に対して配慮深い対応をすること

発行
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
 〒421-0412 静岡県牧之原市 坂部 2151 番地 2
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
 http://www.yamabatogakuen.jp/
 機関誌代は無料です。



には慣れていた。が、日本のメディア関係者は、私が語る言葉に対して、心を開き、共感を示し、歓迎の気持ちさえ表してくれたのだった。彼らの編集記事は、とても友好的な内容だった。こういったことの背後には、記者自身が、同じ自由と喜びを個人的に味わっているからではないかと私は思う。そんなことは、オーストラリアでは

見られないことである。

日本の人々は、高齢者も若者も、穏やかなイエス、愛に満ち、謙遜な心をもったイエスについて聴くことをとても喜んだ。これまでも言ったように、私が話した人たちは、大半がキリスト者でない人たちであり、あるいは信者であつてもプロテスタントの人たちだったが、彼らからは、正直で率直、謙虚という印象を受けた。

これとは対照的に、カトリック教徒の司祭やシスターや活動家たちからは、多くの場合、閉鎖的で頑なな印象を受けた。彼らの関心は、もっぱら、組織や改革計画、政治的課題であるようだった。もちろんそれは悪いことではない。しかし、愛を求めて苦しみ叫んでいるひとりひとりに寄り添うためにはとても足りないものなのだ。

二十年前、私が東京にマザーテレサの「神の愛の宣教者会・ブラザー

の部」を設置したさい、とても協力してくれた司祭やシスターは、今は社会正義のための活動に力を入れていたが、かつてのような温かい心を失ったように思われた。頑固で怒りっぽく、何かにつけ批判し、ネガティブだったのだ。残念ながら、彼らとの話合いは楽しいものではなかった。その耳には、人の内面を開放するイエスの言葉は届いていないようだった。

現代社会にはひどい霊的な飢餓や渇きがある。にもかかわらず、日本のカトリック教会は、霊的な飢えを満たす貴重なチャンスを見逃しているのではなからうか。

教会は政治的社会的問題に熱心になっていくが、この領域には(教会関係者が入らなくても)すでに多くの優秀な人々が働いてくれていると思う。

同様のことは、オーストラリアの教会についても言える。オーストラリアでも、多くの飢えた羊がケアされないままになっている。

来日以来、見知らぬ文化、知らない人々との出会い、常に通訳を介したコミュニケーション等、この一月は、私にとって非常に厳

しいものだった。しかし、同時に、暖かいもてなしや、私への丁寧な対応や感謝等、とてつもなく恵まれた時にもなった。

また、私自身がイエスが与えてくださる内的自由の喜びを味わい、神のご臨在にふれるドキドキするような時も持つことができた。それは、以前には、それほど明確には認識されないことだったのだ。

私が語る聖書の言葉は、ありふれた平凡なものだったが、聴いた人々は心を動かされた。しばしば私は、次に誰に話をするのか知らなかったが、しかし、神ご自身が働いて下さった。神の言葉そのもののの中に、神の力があるのだ。

人々の心を動かすものは、人間的な優秀さや、スキルではない。このことを、すべての人々、説教者や、宗教教師、子を持つ両親等は、心に刻んでおく必要があると思う。また、このこと(神のわざという事実)の中に私たちの希望もある。

感動や反応は、議論や争いからは生まれないことを、私は改めて学んだ。それは、聖書のイエスが、愛や温かい心となって、人々の内に広がっていくことから生まれる。

このことのために私は全力を尽くさねばならない。福音を生きたこと、イエスを生きたということ、自らを神の愛を証しする存在に変えていただくことである。

カトリック教会は、人々と分かち合うことができる実に素晴らしいもの、豊かなものを持っている。が、私たち関係者―司祭や神学者やシスターや教師等―の多くは、その素晴らしいものを失ったのではなからうか。そして、世界の霊的飢餓は広がり続けているのだ。

自分について言えば、私は、何を語り何を説教すべきか悩むことを止め、何よりもまず、イエスのもとへ行く必要がある。一人きりで、「祈り」という誰もいない場所にイエスを迎え、イエスに耳を傾け、イエスと交わる必要がある。

どうか、私たちの心が頑なになりませんように、イエスがわたしたちに差し出して下さる聖霊に心を開き、イエスの言葉に導かれて、周囲にいる、愛に飢えた魂に近づくことができますように。(完)

「訳者の感想」

ブラザーアンドリューの文章を訳しながら、ご利用者や職員たち

と共にブラザーを歓迎したこと、講演会を開催したこと、聖ルカホームの礼拝でお話して頂いたことや、入院中の長沢巖を見舞って下さったことなどを、つい昨日のこのように思い出しました。いつも静かで、柔和な方でした。

「死」について、「恐れることはありません。この部屋から隣の部屋へ移るようなものですから、安心してください」と言われたことや、「幸せは、お金や権力を持つことで得られるものではありません。互いに思いやり、助け合うことによつて幸せになれます」と言われたことが印象に残っています。

訳しながら、内面的、霊的な表現が多いので、読者の皆様、(特に信仰とは無縁の方々)に理解していただけるか心配になりましたが、優しく謙虚なブラザーの人格の根底に、このような、唯一人で神と向き合う真摯な霊的生活があったことを知って頂ければ幸いです。

文中に、社会活動等に熱心な教会関係者たちについて、その心が頑なに怒りっぽくなっていることを嘆いている箇所がありますが、これは、カトリック関係者

だけでなく、福祉事業関係者にも言えるのではないかと思います。

例えば、専門的知識の習得に熱心な人々に関して。その学びは大事です、専門的知識・技術を深めることは、必ずしも、そのままご利用者への暖かい寄り添いにはつながらないことを自覚しておくべきと思うわけです。

自己中心的で、相手よりも常に優位に立ちやすい私たちの心、また、すぐ枯渇してカサカサに乾きがちな空虚な内面、隣人との関係を冷淡にし壊しがちな心の闇、そういうものを解放してくれる力として、ブラザーアンドリューは、聖霊の助けや、イエスとの個人的な交わりが必要なことを語っています。福祉の仕事に関わる私たちは、ひとりひとりに寄り添っていくことができるよう、ブラザーの助言に耳を傾けたいと思います。

〈理事長〉長沢道子



ミャンマーからの特定技能生との座談会

八月よりグレイスと聖ルカホームで働いているミャンマーからの技能実習生四名にインタビューしました。聖ルカホームで働いているのはミヤールさん、モーさん。グレイスで働いているのはフーさんとカンさんです。カンさんは、北の農村地区出身ですが、他の三人は、ヤンゴンなど大都会の出身です。

・ミャンマーにも日本のように四季はありますか。

ミャンマーは夏、雨季・冬の三つです。

・雪は降りますか。

山の地方の一部で降りますが、都市部では降りません。

・ミャンマーではどんなお祭りがありますか。

四月に水祭りがあります。四月十七日はミャンマーのお正月です。その期間中(四〜五日間)はミャンマー全土で水をかけあいます。四月の季節は夏なので寒くありません。一月一日は、ミャンマーでは特に祝ったりしません。

・ミャンマーの果物はどんなものがありますか。

マンゴーがおいしいし、種類もたくさんあり、手に入りやすいです。

また、小さいバナナや赤いバナナがあり、おいしいです。

・どうして日本で働くかと思いましたが？

① ミャンマーには働き口が少ないので日本に来ました。

② 日本は安全で外国人にも優しい。チャンスもたくさんあると思います。

③ 日本の方がミャンマーよりお給料が良いためです。

・来日して困ったことは何ですか？

① 日本語に困りました。ミャンマーで習った日本語はスペースだけで、句読点がありませんでしたので、読めなくて困りました。

② 夜、買物をしてグレイスへ帰るとき、坂道で、猪に遭いました。重たい荷物を持っていたためすぐ逃げられず、怖かったです。猪はすぐそばまでやってきて、走つていききました。

③ 自分の部屋にミャンマーでは見たことのない大きな蜘蛛がいて、びっくりしました。

・日本とミャンマーの文化の違いで困ったことは何ですか。

① ミャンマーでは車は右側通行なので、混乱しました。

② 日本の町の中では人よりも車の方

を多く見かけます。とても車が多い印象です。

③ たくさん挨拶することです。日本

は時間によって挨拶がいろいろ変わります(おはようございます、こんにちは等)。ミャンマーでは挨拶はあまりせず、微笑みをかわすくらいです。

④ ミャンマーには硬貨が無く、紙幣のみなので精算に時間がかかりました。

⑤ 自動精算機の使い方がわからず困りました。

⑥ 日本では昼の1時を13時のような言い方をしますが、ミャンマーの言い方は1時だけ。朝の7時、夜の7時のような言い方で区別しています。

・日本で楽しいと思うことは何ですか。

お祭りがたくさんあっていいです。この間も坂部の屋台を見ました。また、ミャンマーには日本のような大きな花火大会は無いので、楽しみにしています。

・ホームシックになったことはありますか。

① 時々寂しくなることもあります。

② 全然ありません。すごく楽しい毎日です。

ちなみに、現在、当法人の高齢者施設では、フィリピン、韓国、中国、インドネシア、ミャンマーの外国籍



法人本部 事務員 門田 玲子
伊故海恵子

の方たちが、十名働いています。日本人と結婚して長く日本に住み就職した人、国と国の連携協約に基づいて研修と就労のため来日したEPA生、そして、介護と日本語の基礎的学習を終えて就労した特定技能「介護」実習生たちです。

本年十二月からは、障害者支援施設でも初めてEPA生二名を受入れる予定で、さらに次年度もEPA生二名の受入が確定しているため、多様な文化背景を持った人々とともに協力していくこととなります。

当法人のモットー「ともに生きる」が、真の意味で内実化しているようご加勢下さい。

赤い羽根募金表彰・募金型自販機の設置

ワークセンターあさがお 石神知之

先日、静岡県健康福祉大会で赤い羽根(社)静岡県共同募金会会長表彰「募金ボランティア団体」をいただきました。長年、募金型の自販機設置に協力したことが評価されたのでした。

正式には「社会貢献型自動販売機」といい、この自販機で飲料を購入すると、その売り上げの一部が赤い羽根共同募金に寄付される仕組みになっています。

ワークセンターあさがおでは移転新築の際、備品を同団体の支援を受けて購入しており、その縁も



あつて約4年前(榛葉前施設長の時)から募金型自販機を設置したのです。

当施設に面した通りには店舗が無く、自販機利用者の多くは通学の中高生と旧雇用促進住宅に住む方々です。

ジュースを飲む方の中にはもちろんご利用者もいます。徒歩で30分近くの地区に住む方は、職員より一足早く通所し、自販機でジュースを購入して、美味しく飲むながら開所時間を待っているのです。その姿を見ると、今日も元気に通所してくれたなと思つてます。

新規設置ももちろんですが、既存の自販機でも契約変更で社会貢献型自販機に切り替えることが可能なようです。美味しく飲んで社会貢献。募金型でない自販機を設置の皆さん、ご一考してみてくださいいかがでしょうか。

(施設長)

防災の取り組みについて

ワークセンターふれあい 伊藤はづき



『ふれあい』は川根町家山という山間部に位置し、水害の危険性の高い地域にあります。二年前の台風一五号では、沢から土砂が流出し、施設周辺まで押し迫ってきました。こうした被害を受け、より高い防災意識を持つ必要性を感じ、次のような防災に取り組みました。

内容は大きく四つ。①島田市の危険管理課職員を招き、施設周辺の危険箇所を見ていただきました。その後勉強会を実施し、水害時の具体的な身の守り方を学びました。②少ない職員体制でも緊急時に対応できるよう、行動フローチャートを作成し施設内の各部屋へ掲示しました。③保護者会を利用し、施設の災害対応について話し合う機会を設けました。さらに、各家庭の避難先を確認することで、災害時にご利用者の引き渡しが可能になるよう策を講じてい



ます。④取り組みの中で最も重要性を感じて力を入れているのが地域との連携です。通所中に災害が発生したときは、帰宅困難者が出て地域の方と避難生活を送ることも予想されます。そこで、施設のことを地域の方に知っていただくために、こちらから地区の防災訓練にも参加しています。今年は家山自治会の防災会議に施設長が出席し、避難先での受け入れ体制づくりに着手しました。

普段から地域と顔の見える関係を作り、『ふれあい』も地域の「一員」と認識していただく事が、今私たちに求められている一番の対策だと思います。今後も利用者・職員の命を守るために、必要な防災対策に取り組んでいきます。

(防火管理者)



初めての秋祭り

やまばと希望寮 高松祐輔

やまばと希望寮では、毎年、夏にお祭りでしたが、今年は異常に暑い夏だったので、初めて「秋にお祭り」をすることになりました。

「コロナ禍で行事縮小の昨今、「ト」派手にやっご利用者者を笑わせよう」と委員達は意気揚々。

露店の出し物は? 「フランクフルト!」「焼き鳥!」「焼きそば!」「かき氷でしょ!」「キッチンカーでピザとチュロスは?」「ジュースは必然よ!」等々、食べたいたのは?利用者者ではなく、職員の方では?と言いたくなる位、アイデアが続出。

お客さんは誰を呼ぶ? 「保護者様!」「町内会の皆様!」「民生委員さんにも!」「近くの企業の方も!」と、どんどん数が増え、百五十食分を用意することになりました。

祭りも近づいた頃、模擬店の担当者が足りない!と、急遽、ボランティアを再募集。職員家族のご協力で何とか解決できました。

十月十九日、いよいよ本番の日。次々にお客様が見え、会場の芝生や希望寮ホール、食堂のあちこちで、「久しぶり!」等の声も。

長澤理事長と大畑施設長の挨拶で、

秋祭りが始まりました。あちこちでおいしい食事が提供され、どこへ行くべきか迷う人、幾度も通う人など、興味深い光景が見られました。

家族と再会してもそっけないご利用者もいれば、そばに座って離れないご利用者もいましたが、皆、暖かい交わりを喜んでいました。

Aさんは、「ご家族の訪問はありませんでしたが、鈴木勝利元施設長に付添われて大喜び。まるで王子様のように満足気に、好きなだけ食べていました。

おいしい食事やケーキを提供して下さった給食業者のウエルビーさん、駐車場を貸して下さった第一化成(株)の皆さん、ご近所の方々、ボランティアの皆さん、希望寮大好きなOB・OGの皆さん、多くの皆様のご参加とご協力のおかげで、楽しい秋祭りを終えることができました。本当にありがとうございました。

民生委員の一人から、「今度施設を見学したい」との言葉を頂いたのも嬉しいことでした。

今後も法人の理念「ともに生きる」を実感できる行事を企画・実行していきたいと思えます。

祭りの様子などは、希望寮のQRコードからぜひご覧下さい、いいねをお願いします。

(生活支援員、秋祭り実行委員)

アート習字

すずらん 片山雄介

すずらんでは、体操や輪投げ、ボール送り、絵合わせ、ゲームなど様々なレクリエーションを毎月の計画に基づいて行っていますが、昨年からの取り入れているのが「アート習字」。

アート習字は、正しい字の形にとられない、自由な書という意味が込められています。習字には幾つかの効果があり、すずらんでは次の二つの点を特に期待しています。

一つは、習字では腕や姿勢、角度などいくつかの動きをコントロールしなければならぬため、神経を集中させます。そのため自然に集中力



が上がることを期待できます。二つ目は、筆を使って文字を書くこと脳の右半球を活性化させ、創造性や直感力を高めます。また、文字の形を覚え、それを表現するので、記憶力を鍛え脳全体の活性化も期待できます。

アート習字をやってみて違和感を覚える方もいらっしゃるかもしれませんが、書いているうちに自分なりにアレンジされるようになった方もいます。

大きく文字を書く方、ご自分の好きな言葉を書く方、出来上がった作品に色の筆ペンを使い仕上げる方、楷書の基本にそって書く方、名前をフルネームで書く方、年齢まで書く方など、お一人お一人によっていろんな表現の仕方があり、楽しい時間でした。習字に期待する効果以外にもそのご利用者様のことを知り、今後のケアに活かすことができるため、今後もアート習字を含めた習字を続けていきたいと思えます。

(相談員)



やまばと希望寮の FacebookのQRコード

歩みのあと

(9月1日〜10月31日)

●全体的なこと

▲9/3〜6第1次補正予算等... ▲9/9〜18全体虐待防止委員... ▲9/10〜13秋祭

●法人

▲9/6聖ルカ長期借入金返済... ▲9/10コスモス建物... ▲9/11修繕

●垂穂堂

▲9/17静岡福祉大学木下... ▲9/30健康診断... ▲10/5ご家族

●野村

▲9/6日帰りバス旅行... ▲9/17桑嶋... ▲10/21〜25藤枝

●希望

▲9/27健康診断... ▲9/28前期個別面談... ▲10/16感染症研

り。コロナ自粛以来最多の人々が来所... 生活支援センター... 希望の家

花もも... 希望の家... 希望の家

希望の家... 希望の家... 希望の家

寄付金状況報告 (単位:円)
寄付金 3,245,200
指定寄付金 0
合計 3,245,200
10月 622,350
計 3,867,550

※2022年度より、機関紙代収入は計上していません。すべて寄附金収入として、計上しています。

東京21合唱団 第18回コンサート
マリアへの受胎告知からイエスの誕生まで
日時: 2024年12月6日(金)
会場: 日本キリスト教団 霊南坂教会
公式HP: http://21chor.tokyo
お問合せ: info@21chor.tokyo